

## ひがし茶屋街

ひがし茶屋は、金沢の3つの歴史的な歓楽街であるお茶屋街のなかで最も大きい地区だ。ここでは、芸妓（地元での芸者の呼び方）が豪商たちを音楽と踊り、遊びでもてなすために1820年に設置された。この地区の伝統的な木造りの建物と格子窓は、200年の歴史ならではの趣がある。現在、こうした建物の多くは、カフェ、レストラン、甘味処、工芸品店となっているが、いくつかはまだ、芸妓を抱えるお茶屋のままである。芸妓のもてなしの世界は、ひいきの顧客に限られ、紹介がなければ入れないが、一般の訪問者たちは、お茶屋のいくつかを見学でき、芸妓による実演を見ることができる。

お茶屋「志摩」は、かつてのお茶屋だ。現在は、ひがし茶屋の芸妓文化に特化した美術館として運営されている。この建物の簡素な木の外観と、明るい赤色の壁、畳、そして中庭は、200年にわたりほぼ変わらぬ趣のまま残っている。かつて芸妓が得意客をもてなした部屋は、現在は、芸妓の髪飾りと楽器、食器を展示している。

「懐華楼」は、現在も営業をしている芸妓のお茶屋だ。195年の歴史をもつ建物の中にあり、金箔で織られた畳の部屋がある。この建物は、昼間は有料で一般公開されている。懐華楼では日によって夜に、英語で行う参加型の芸妓の実演、「芸者 イブニング イン 金沢」を開催している。客の何人かは、芸妓と一緒に伝統的な遊びに参加することができる。オンラインでの予約が可能。

金箔製品の生産は金沢を象徴する工芸であり、ひがし茶屋には金箔製品を販売する店が数多くある。いくつかの店舗では、訪問者たちが皿や箸、ジュエリーボックスなどに本物の金箔を貼る体験をすることができる。